

# 『人民の歴史学』総目録

第101号(1989年9月) — 第150号(2001年12月)

## 第101号(1989年9月)

《特集：都市史研究の課題と方法—「江戸東京博物館」問題をめぐって—》

＜東京歴史科学研究会第二三回大会委員会企画＞

石塚裕道 近代都市史研究の課題と方法—首都東京をめぐって—

森 健一 「江戸東京博物館」構想の政策的背景について

委員会WG 「江戸東京学」をめぐって

討論記録

＜委員会学習の記録＞

市川寛明 社会科解体について

＜ラウンジ＞

＜委員会だより＞

＜部会だより＞

## 第102号(1989年12月)

＜東京歴史科学研究会第二三回大会個別報告＞

湯浅治久 戦国期の「徳政」と在地社会—主に村落との関連で—

斎藤善之 近世初期の百姓一揆と村請制

＜科学運動通信＞

上杉和彦 「江戸東京博物館問題」のとりくみの現状

小泉弓子 東京への思い—臨海部見学会に参加して—

森 健一 「東京臨海部開発問題」と「世界都市博覧会構想」について

徳田秀子 シンポジウム「鷺城をめぐる諸問題2」参加記

## 第103号(1990年3月)

### <論文>

- 深谷克己 歴史研究と教科書叙述  
菊池克美 教科書訴訟と司法判断—判決の通覧—  
伊藤定良 近代ヨーロッパ史再考

### <東京歴史科学研究会第二四回大会報告レジュメ>

#### 【個別報告】

- 家永遵嗣  
杉本史子

#### 【委員会企画】

- 委員会 現代『社会主義』の諸問題—改革と模索の道程—  
平泉公雄  
毛里和子  
木村英亮

### <江戸東京博物館建設計画に関する提言>

### <ラウンジ>

## 第104号(1990年6月)

### <論文>

- 太田幸男 大学における歴史教育と歴史認識  
平田哲男 安保闘争のうた—安保闘争三〇年にあたって、若きK君への手紙—  
青木哲夫 社会主義の危機

### <文献紹介>

- 原 直史 歴史学研究会・日本史研究会・歴史教育者協議会・歴史科学協議会編  
『「即位の礼」と大嘗祭—歴史家はこう考える—』

### <東京歴史科学研究会第二四回総会報告>

### <ラウンジ>

## 第105号(1990年9月)

### <東京歴史科学研究会第二四回大会委員会企画>

- 平泉公雄 ハンガリーはなぜ東欧革命の水先案内人たりえたか  
毛里和子 社会主義の変容と頓挫した中国の革命  
木村英亮 スターリンの民族政策の形成—革命前ザカフカージェエでの活動について—

### <東京歴史科学研究会入門講座>

- 姫田光義 『もう一つの三光作戦』から『中国—民主化運動の歴史—』まで

### <五月例会(フィールドワーク)報告>

- 森 健一 「国際化」する東京と「都市アメニティ」について

### <ラウンジ>

## 第106号(1990年12月)

### <東京歴史科学研究会第二四回大会個別報告>

- 家永遵嗣 室町幕府奉公衆体制と「室町殿家司」  
杉本史子 天保国高・国絵図改訂事業の基礎過程

### <書評>

- 林 彰 大正デモクラシーの知られざる一面  
—小松隆二著『大正自由人物語—望月桂とその周辺—』によせて—

### <文献紹介>

- 小泉弓子 『豊島の集団学童資料集(1)日記・書簡編I—時習国民学校—』

### <ラウンジ>

## 第107号(1991年3月)

### <論考>

- 佐々木隆爾 教育反動の原点をさぐる—勤評・教科書検定から三二年—  
小泉弓子 なぜ「生涯学習振興法」なのか(1)

### <小特集:シリーズ「歴史研究と教科書叙述」>

- 木村茂光 「荘園」をいかに教えないか  
今野日出晴 荘園公領制をどう教えるか—平安・鎌倉期の民衆を中心に—

峯岸賢太郎 近世身分についての教科書記述の問題点

岩根謙一 近世の農民像について

<東京歴史科学研究会第二五回大会報告レジュメ>

【個別報告】

上杉和彦 十一世紀の朝廷訴訟制度

原直史 近世両総地域における駄賃稼ぎ

徳橋曜 中世イタリア都市の隣人関係—フィレンツェの場合—

【委員会企画】

委員会 戦後世界史と安保体制

<ラウンジ>

<一月例会報告>

<「湾岸戦争」の即時停戦を求め、日本政府によるあらゆる戦争協力・自衛隊派遣に反対する声明>

## 第108号(1991年6月)

<論文>

河内信幸 『タイム』・『ライフ』の社会史—「栄光のライフ展」によせて—

<書評>

牧聖一 中野豊任著『忘れられた霊場—中世心性史の試み—』

<小特集：シリーズ「歴史研究と教科書叙述」Ⅱ>

荒木敏夫 律令制と古代社会—古代史学の論点と成果をめぐって—

小山一成 古代律令制について

高埜利彦 近世の天皇をめぐって

三浦進 明治維新と天皇・民衆

<東京歴史科学研究会第二五回総会報告>

<ラウンジ>

## 第109号(1991年9月)

<<特集：戦後世界史と安保体制>>

<東京歴史科学研究会第二五回大会委員会企画>

- 古関彰一 日米安保体制の基本構造  
橋谷 弘 アジアの中の安保闘争—その意義と限界—

<論文>

- 栗田禎子 「湾岸危機」の歴史的背景

<書評>

- 佐藤 明 溝口雄三著『方法としての中国』—世界史認識の再検討に向けて—

<歴史学入門講座の記録>

<ラウンジ>

## 第110号(1991年12月)

<東京歴史科学研究会第二五回大会個別報告>

- 上杉和彦 十一世紀の朝廷訴訟制度  
徳橋 曜 中世イタリア都市の隣人関係—フィレンツェの場合—  
原 直史 近世両総地域における駄賃稼ぎ—東上総・九十九里地域の漁獲物と年貢米輸送を中心として—

<文献紹介>

- 西木浩一 脇田修著『河原巻物の世界』

## 第111号(1992年3月)

<合評：深谷克己「近世の国家・社会と天皇」>

- 落合延孝 深谷克己『近世の国家・社会と天皇』を読む  
—第二部「近世の社会と朝廷」を中心として—  
田中暁龍 深谷克己『近世の国家・社会と天皇』を読む—第一部・第三部を中心に—  
深谷克己 近世天皇を認識する視点と方法

<論文>

- 笠原十九司 世界に知られていた南京大虐殺—マギー牧師撮影のフィルムをめぐって—

<小特集：シリーズ「歴史研究と教科書叙述」Ⅲ>

- 大日方純夫 自由民権運動をめぐって  
三浦 進 歴史教育における自由民権運動

<東京歴史科学研究会第二六回大会報告レジュメ>

【個別報告】

近藤富成

森下 徹

中田 潤

【委員会企画】

池 亨

本多隆成

<ラウンジ>

## 第112号(1992年6月)

### <特集：近代の都市と社会>

#### <論文>

布川 弘 明治期都市職人組織の再編と社会秩序—兵庫・神戸の浜仲仕業を中心として—

#### <書評>

阿久津利永子 D・ポイカート著『ナチスドイツ—ある近代の社会史—』

徳永高志 石塚裕道著『日本近代都市論—東京：1868—1923—』

#### <文献紹介>

小泉弓子 伊藤寿朗著『ひらけ、博物館』

<東京歴史科学研究会第二六回総会報告>

## 第113号(1992年9月)

### <特集：中・近世移行期の国家と社会>

#### <東京歴史科学研究会第二六回大会委員会企画>

池 亨 中近世移行期における国家・社会と領主制

本多隆成 中・近世移行期の東海地域

討論要旨

#### <書評>

菊池浩幸 伊藤正敏著『中世後期の村落—紀伊国賀太荘の場合—』

梅田欽治 東京歴史科学研究会婦人運動史部会『女と戦争—戦争は女の生活をどう変えたか—』

<東京歴史科学研究会六月例会の記録>

<委員会だより>

<ラウンジ>

## 第114号(1992年12月)

<東京歴史科学研究会第二六回大会個別報告>

近藤富成 清代気化綏遠城市街地の形成過程

森下 徹 近世前期岡山藩領における雇用労働の展開

<論文>

深谷幸治 織田政権期近江の代官支配について

<委員会だより>

## 第115号(1993年3月)

<東京歴史科学研究会第二六回大会個別報告>

中田 潤 ヴァイマル共和国末期の雇用創出政策と国防軍

<論文>

阪東 宏 一九八〇年代の教科書検定について

<書評>

奥村 哲 和田春樹著『歴史としての社会主義』をめぐって

<東京歴史科学研究会第二七回大会報告レジュメ>

【個別報告】

大隈清陽 律令官制における京官と外官—比較国制史としての律令制研究にむけて—  
早稲田大学大学院近現代史ゼミ

報告者グループ 自由民権期における地域民衆結社の動向—相馬・北辰社を例に—  
阿久津利永子 ヴァイマル共和国における放送統制—番組検閲と政治的監視委員会—

【委員会企画】

委員会 江戸と東京—都市史の方法—

## 第116号(1993年7月)

### <論文>

岸本美緒 比較国制史研究と中国社会像

近江吉明 トウシャン蜂起の実像を求めて—「蜂起衆」成立の諸局面から—

### <書評>

高木博志・笠原明子 海保洋子著『近代北方史—アイヌ民族と女性と—』

### <東京歴史科学研究会第二七回総会報告>

## 第117号(1993年9月)

### 《特集：江戸と東京—都市史の方法—》

#### <東京歴史科学研究会第二七回大会委員会企画>

塚田 孝 近世都市史研究の課題と方法

中嶋久人 都市近代化の開始と「市民社会」—東京会議所と道路整備をめぐる「世論」の動向—  
討論要旨

### <論文>

平田哲男 いま、ロシアを考える—旅後記のころみの一節—

## 第118号(1994年1月)

#### <東京歴史科学研究会第二七回大会個別報告>

早稲田大学大学院荊宿文書研究会

自由民権期に於ける地域民衆結社の動向—相馬北辰社を例に—

阿久津利永子 ヴァイマル共和国における放送統制—一九二六年の放送秩序と番組検閲—

### <論文>

宮崎克則 民衆的世界の否定と近代社会の成立(上)—「連続」から「断絶」へ—

### <書評>

岩淵令治 野口徹著『日本近世の都市と建築』



## 第119号(1994年4月)

### <東京歴史科学研究会市民講座>

内海愛子 日本の戦争とアジア

### <論文>

宮崎克則 民衆的世界の否定と近代社会の成立(下) — 「連続」から「断絶」へ —

### <部会だより：婦人運動史部会>

### <東京歴史科学研究会第二八回大会報告レジュメ>

#### 【個別報告】

小川 央 中世奈良の非人集団

市川寛明 武家奉公人における「譜代制」の変容と確保政策の展開

#### 【委員会企画】

委員会 奉公人と労働者—都市史の方法2—

松本良太 武家奉公人と藩邸社会

布川 弘 帝国主義と都市「下層社会」—賀川豊彦のスラム改善事業を中心に—

### <ラウンジ>

## 第120号(1994年7月)

### <東京歴史科学研究会第二七回大会個別報告>

大隈清陽 律令官制における京官と外官—比較国制史としての律令制研究にむけて—

### <研究ノート>

青木哲夫 日本における科学的社会主義政治勢力の現存社会主義論の展開(上)

### <書評>

木村 広 鈴木正幸著『皇室制度—明治から戦後まで—』

### <東京歴史科学研究会第二八回総会報告>

## 第121号(1994年10月)

### 《特集：奉公人と労働者—都市史の方法2—》

#### ＜東京歴史科学研究会第二八回大会委員会企画＞

- 松本良太 藩邸社会と都市下層社会—労働力供給の問題を中心に—  
布川 弘 帝国主義と都市「下層社会」—賀川豊彦の「新川」スラムでの活動を素材に—  
討論要旨

#### ＜研究ノート＞

- 青木哲夫 日本における科学的社会主義政治勢力の現存社会主義論の展開(下)

#### ＜書評＞

- 森田喜久男 鬼頭清明著『日本古代史研究と国家論—その批判と視座—』

## 第122号(1995年1月)

#### ＜東京歴史科学研究会第二八回大会個別報告＞

- 市川寛明 武家奉公人における「譜代制」の変質過程

#### ＜文献紹介＞

- 白川耕一 栗原優著『第二次世界大戦の勃発—ヒトラーとドイツ帝国主義—』  
菊池浩幸 歴史科学協議会編『新しい中世像の展開』  
木村 広 沼津市史編集委員会編『沼津市史叢書二 戦中絵日記』

#### ＜部会だより：現代史部会＞

#### ＜ラウンジ＞

## 第123号(1995年3月)

#### ＜論文＞

- 内田博明 中世成立期の四至と勝示

#### ＜東京歴史科学研究会第二八回大会個別報告＞

- 小川 央 中世奈良の非人集団—前期からの展開—

#### ＜研究ノート＞

- 上杉 忍 アメリカ合衆国黒人公民権運動の源流を探る旅

<通信>

阿久津利永子 ドイツ選挙模様—ミュンスターでのドイツ連邦議会選挙戦を振り返って—

<東京歴史科学研究会第二九回大会報告レジュメ>

【個別報告】

木村 広 一九二〇・三〇年代の天皇制の政治構造について—昭和天皇とその側近をめぐって—

千葉正史 清末における清朝国家の近代交通建設  
—「開明的民族主義政権」としての清朝評価への可能性—

久保健一郎 戦国期の品川と後北条氏

【委員会企画】

委員会 国民国家の形成と地方自治

篠原 琢 地方自治と「国民社会」—ハプスブルク帝国における自治制度—

奥村 弘 「近代日本」認識の方法としての国民国家論をめぐって

<東京歴史科学研究会例会の記録>

## 第124号(1995年7月)

<東京歴史科学研究会第二九回総会報告>

<論文>

岡田 功 中国古代史上における竹・木簡をめぐる諸問題—秦漢代史を中心に—

浅野 充 日本古代国家研究・都市研究の現在的課題

<書評>

森 茂樹 山田朗著『大元帥昭和天皇』

<ラウンジ>

片倉比佐子 南千住八丁目高田家住宅の保存について

<一九九四年度『人民の歴史』総目次(第一二〇~一二三号)>

## 第125号(1995年9月)

<東京歴史科学研究会第二九回大会個別報告>

木村 広 一九二〇・三〇年代の天皇制の政治構造について—昭和天皇と宮中側近をめぐって—

千葉正史 清末における清朝国家の近代交通建設—電気通信・鉄道建設に見る清朝国家の近代化—

久保健一郎 戦国期の品川と後北条氏

<東京歴史科学研究会活動の記録>

稲葉継陽・近藤富成 六月講座

安井 崇 高田家住宅見学会

<委員会だより>

## 第126号(1996年1月)

《特集：国民国家の形成と地方自治》

<東京歴史科学研究会第二九回大会委員会企画>

篠原 琢 地方自治と「国民社会」

—ボヘミアの事例を通してみたハプスブルク帝国の地方自治制度—

奥村 弘 「近代日本」認識の方法としての国民国家論と地方自治

討論要旨

<研究ノート>

木村茂光 古代中世畠作史研究に関する若干の論点

—鈴木・高橋・磯貝・河音・井原諸氏の書評で考えたこと—

<東京歴史科学研究会活動の記録>

西浦直子 教科書検定訴訟を支援する十一月集会

近代史部会・現代史部会

## 第127号(1996年3月)

《特集：戦後五〇年と歴史学の現在》

深谷克己 戦後五〇年と歴史学の現在

近江吉明 世界史認識の「今日」を考える—戦後五〇年の歩みをふりかえって—

家永三郎 教科書裁判と戦後の歴史学

木村 礎 村歩きの中で考えてきた

浜林正夫 戦後五〇年の歴史学と私の歩み

阪東 宏 五〇年の断想

弓削 達 「戦後歴史学」の熱気が甦るとき

<東京歴史科学研究会第三〇回大会報告レジュメ>

【個別報告】

田中暁龍 近世前期朝幕関係史の一視点—寛文～元禄期の公家処罰を中心に—

阿部安成 文明開化と生活世界

月脚達彦 大韓帝国における「国民化」・序説

【委員会企画】

委員会 都市化と地域社会—都市史の方法3—

雨宮昭一 一九二〇年代日本の地域社会と「国家」—均質化・差異化と“主体”—

青木哲夫 東京都集団学童疎開にみる戦時下都政の性格(仮)

<東京歴史科学研究会活動の記録>

岡部造史 歴史科学講座

白川耕一 二・一一集会

## 第128号(1996年6月)

《特集：戦争認識と歴史教育の現在》

笠原十九司 戦争肯定論・免罪論の軌跡と現在—日本人の南京大虐殺認識をめぐって—

今野日出晴 「近現代史」授業改革運動の射程

白川耕一 ドイツ史研究からのコメント

《特集：戦後五〇年と歴史学の現在(続)》

今井清一 関東大震災のことなど

<ラウンジ：本誌一二六号・奥村弘氏の論考によせて>

小沢弘明 国民国家論の前提

<書評・文献紹介>

竹内光浩 伊藤喜良著『中世王権の成立』

平井雄一郎 小路田泰直著『憲政の常道—天皇の国の民主主義—』

<東京歴史科学研究会第三〇回総会報告>

## 第129号(1996年9月)

《特集：都市化と地域社会—都市史の方法3—》

<東京歴史科学研究会第三〇回大会委員会企画>

青木哲夫 東京都集団学童疎開にみる戦時下の都政

雨宮昭一 田中内閣期における地方分権問題と地域社会—差異・主体・制度—  
討論要旨

<東京歴史科学研究会歴史科学講座>

小谷汪之 歴史学をめぐる今日の理論状況

<東京歴史科学研究会活動の記録>

大友真一・菅 香 六月講座

<委員会だより>

## 第130号(1996年12月)

<東京歴史科学研究会第三〇回大会個別報告>

田中暁龍 近世前期朝幕関係史の一視点—寛文～元禄期の公家処罰を中心に—

阿部安成 「文明開化と生活世界」論序説

月脚達彦 大韓帝国における「国民化」・序説

<文献紹介>

菊池浩幸 峰岸純夫・木村茂光編『史料と遺跡が語る中世の東京』

<東京歴史科学研究会活動の記録>

荒木弥生・岡 良子・久保 淳 七月例会 フィールドワーク「臨海副都心」を歩く

## 第131号(1997年3月)

《特集：東京歴史科学研究会三〇年の歩み》

中村尚美 東京歴史科学研究会の三〇年を振り返って

深谷克己 東京歴史科学研究会の初期

山辺昌彦 私と東京歴史科学研究会とのかかわり

山田敬男 現代史部会の思い出

峰岸純夫 私の東歴研

米田佐代子 わたしの「東歴研時代」

林 彰 私と東京歴史科学研究会のかかわり

上杉和彦 「東京」と「歴史科学」と

西木浩一 東歴研での活動を振り返って

堀 サチ子 婦人運動史部会二七年の歩み

<書評>

白川耕一 川越修著『性に病む社会—ドイツ ある近代の軌跡—』

<東京歴史科学研究会第三一回大会報告レジュメ>

【個別報告】

木村卓滋 旧軍人関連団体をめぐる諸問題

川手圭一 ドイツ第二帝政における青少年育成と国民統合—職業教育と「青少年問題」—

【委員会企画】

- 委員会 日本中世・近世移行期論の現在—村落論を中心に—  
藤田達生 村の侍と兵農分離—伊賀の事例を中心に—  
吉田ゆり子 中近世移行期の「武士」と村落—山城国狛氏の動向を中心として—

＜東京歴史科学研究会活動の記録＞

第132号(1997年6月)

＜東京歴史科学研究会歴史科学講座＞

- 大日方純夫 近代史研究の動向とその背景—何がどう問題なのか—  
田崎公司 大日方氏の講演を聴いて

＜東京歴史科学研究会一月例会＞

- 横山恵美 都心部における地域博物館の役割—豊島区の活動を中心に—

＜書評＞

- 牧 聖一 歴史教育者協議会編『前近代史の新しい学び方—歴史教育と歴史学の対話—』

＜東京歴史科学研究会第三一回総会報告＞

第133号(1997年10月)

《特集：日本中世・近世移行期論の現在—村落論を中心に—(上)》

＜東京歴史科学研究会第三一回大会委員会企画＞

- 藤田達生 村の侍と兵農分離—伊賀の事例を中心に—(上)  
吉田ゆり子 中近世移行期の「武士」と村落—山城国狛氏の動向を中心として—(上)  
討論要旨

＜現状分析＞

- 松田昌治 台湾の「民主化」と「中台統一」問題

＜通信＞

- 青木哲夫 「戦犯記念碑違憲訴訟」最高裁判決

第134号(1997年12月)

＜東京歴史科学研究会第三一回大会個別報告＞

- 木村卓滋 戦傷病者戦没者遺族等援護法の制定と軍人恩給の復活—旧軍人関連団体への影響を中心に—

- 川手圭一 ドイツ第二帝政における青少年政策と国民統合—職業教育と「青少年問題」—

《特集：日本中世・近世移行期論の現在—村落論を中心に—(下)》

<東京歴史科学研究会第三一回大会委員会企画>

藤田達生 村の侍と兵農分離—伊賀の事例を中心に—(下)

吉田ゆり子 中近世移行期の「武士」と村落—山城国狛氏の動向を中心として—(下)

第135号(1998年3月)

<特集：日本中世の国家と王権>

保立道久 黒田学説の位相

伊藤喜良 中世後期からみた王権

<論文>

鶴飼政志 米国の下関賠償金返還—駐米日本大使館のロビー活動—

<書評>

吉澤文寿 高崎宗司著『検証 日韓会談』

<東京歴史科学研究会第三二回大会報告レジュメ>

【個別報告】

安井 崇 「戦後教員組合運動と社会変革」試論—大阪における勤評闘争の事例を中心に—(仮)

三ッ井 崇 「満鮮史」と朝鮮語学—白鳥庫吉の日本語朝鮮語「非同系論」と朝鮮認識—

白鳥圭志 戦間期地方銀行合同史についての一試論—政党政治的状况・地域経済の変容との関係で—

【委員会企画】

委員会 地域統合の核としての中間層—近代史を中心に—

鶴巻孝雄 明治前期中間層の秩序観

住友陽文 国民の「市民」化と社会秩序(仮)—一九〇〇—一九二〇年代の社会認識と統合原理—

第136号(1998年7月)

<特集：教科書問題と歴史学の課題>

<東京歴史科学研究会七月講座>

安田 浩 「藤岡問題」と日本近代史研究の課題

<文献紹介>

鬼頭明成 教科書検定訴訟を支援する歴史学関係者の会編『歴史の法廷—家永教科書裁判と歴史学—』

<東京歴史科学研究会第三二回総会報告>



## 第137号(1998年9月)

### 《特集：地域統合の核としての中間層—近代史を中心に—》

#### ＜東京歴史科学研究会第三二回大会委員会企画＞

- 鶴巻孝雄 教育、文明・国家、そして民権—明治前期中間層の秩序観—  
住友陽文 国民の「市民」化と日本社会論—一九〇〇年代—一九二〇年代を中心に—  
討論要旨

#### ＜文献紹介＞

- 楠木 武・菅 香 [執筆代表] 荒木敏夫・保坂智・加藤哲郎『日本史のエッセンス—歴史が物語るもの—』

#### ＜通信＞

- ウェイ ランチュン 中国大学教科書『日本史』について

#### ＜東京歴史科学研究会活動の記録＞

- 吉田桃子 三〇周年記念講演会  
中村大介 七月例会

## 第138号(1999年1月)

#### ＜東京歴史科学研究会第三二回大会個別報告＞

- 安井 崇 戦後教員組合運動の組織と運動—大阪の事例による—一試論—  
三ツ井 崇 「満鮮史」と朝鮮語学  
—白鳥庫吉の朝鮮語系統論をめぐる言語系統論と歴史観の問題について—  
白鳥圭志 戦間期銀行合同政策史に関する覚書—全体像把握の為の一試論—

#### ＜ラウンジ＞

- 片倉比佐子 南千住八丁目高田家住宅について報告

#### ＜東京歴史科学研究会活動の記録＞

- 東京都平和祈念館（仮称）問題についての意見書

## 第139号(1999年3月)

### <東京歴史科学研究会三〇周年記念講演会>

牧原憲夫 私にとっての国民国家論

### <研究時評>

阿部安成 性、身体、ジェンダーという歴史認識

### <書評>

山田邦明 悪党研究会編『悪党の中世』

戸川 点 鈴木哲雄著『社会史と歴史教育』

### <文献紹介>

内田博明 青木美智男・木村茂光編『教員になる人のための日本史』

### <東京歴史科学研究会第三三回大会報告レジュメ>

#### 【個別報告】

菊池浩幸 室町・戦国期の段銭と大名権力—防長地域を事例に—

金 富子 一九三〇年朝鮮国勢調査にみる識字とジェンダー

大串潤児 戦後改革期、下伊那地域における村政民主化

#### 【委員会企画】

委員会 転換期の国民国家—一九二〇年代日本の国家と社会—

林 宥一 一九二〇年代の社会運動—大衆民主制への転形と「無産階級」の時代—

外村 大 戦前期在日朝鮮人と国民国家日本

### <東京歴史科学研究会活動の記録>

田所祐史 歴史科学講座

坂本 敦 二・一一集会

## 第140号(1999年6月)

### 《特集：二〇世紀の歴史を考える》

- 西川正雄 二〇世紀とは何であったか  
遅塚忠躬 いま、フランス革命を顧みる

### ＜書評＞

- 木村英亮 三強国の歴史と世界史—木村靖二・柴宜弘・長沼秀世著『世界の歴史』第二六巻を読んで—  
石井 修 概説書を書くことのむずかしさについて  
—油井大三郎・古田元夫著『世界の歴史二八 第二次世界大戦から米ソ対立へ』を読む—  
小野 将 深谷克己著『綱ひきする歴史学—近世史研究の身構え—』

### ＜東京歴史科学研究会第三三回総会報告＞

## 第141号(1999年9月)

### 《特集：転換期の国民国家—1920年代の国家と社会—》

### ＜東京歴史科学研究会第33回大会委員会企画＞

- 林 宥一 1920年代の社会運動—大衆民主制への転形と「無産階級」の時代—  
外村 大 戦前期在日朝鮮人と国民国家日本  
討論要旨

### ＜研究時評＞

- 林 彰 ニューヒストリーの精神をめぐって—成田龍一『「故郷」という物語』を読みつつ—

### ＜書評＞

- 友常 勉 竹永三男著『近代日本の地域社会と部落問題』

## 第142号(1999年12月)

### ＜東京歴史科学研究会第33回大会個別報告＞

- 菊池浩幸 室町・戦国期の段銭と大名権力—防長地域を事例に—  
金 富子 1930年朝鮮国勢調査にみる識字とジェンダー  
大串潤児 戦後改革期、下伊那地域における村政民主化  
—長野県下伊那郡上郷村政民主化運動を事例として—

＜東京歴史科学研究会活動の記録＞

井上美穂子 「東京歴史科学研究会7月講座」に参加して  
河西史子 「異文化理解ということ」(7月講座)  
山口和芳 昭和館見学に参加して(7月例会)

第143号(2000年3月)

《特集：歴史学のいまを考える》

＜東京歴史科学研究会歴史科学講座＞

中野隆生 「新しい歴史学」の現状—アナールの「批判的転回」をめぐって—

＜研究時評＞

阿部安成 <国民国家>という歴史認識

＜書評＞

中嶋久人 阿部安成・小関隆・見市雅敏・光永雅明・森村敏己編  
『記憶のかたち—コメモレイションの文化史—』

＜『民科歴史部会資料集』刊行に寄せて＞

坂本 昇 『歴史科学体系33 民科歴史部会資料集』を読んで  
梅田欽治 「国民的歴史学」の思想—1950年代に歴史学がとりくんだこと—

＜東京歴史科学研究会第34回大会報告レジュメ＞

【個別報告】

山崎雅稔 藤原良房政権期の新羅問題(仮)  
河原 円 国防会議設置論と資源保有論  
—大正14、15年の「国家総動員機関設置準備委員会」設置問題を中心に—(仮)  
山口公一 植民地朝鮮における神社政策と朝鮮人の対応—1936～45年—

【委員会企画】

委員会 前近代日本の王権と東アジア—中世後期～近世初期を中心に—(仮)  
橋本 雄 室町幕府外交の構造と展開—王権論と外交史の回路を求めて—  
堀 新 織豊期王権論—「日本国王」から「中華皇帝」へ—

## 第144号(2000年7月)

### <東京歴史科学研究会7月講座>

馬淵貞利 20世紀初頭、東アジアにおける民族運動と国家形成—朝鮮三・一独運動を中心にして—

### <東京歴史科学研究会歴史科学講座>

姫岡とし子 女性史からジェンダーの歴史学へ—ドイツを中心に—

### <研究時評>

早川紀代 最近の近代家族史研究

### <ラウンジ>

櫛 國男 八王子城跡に迫る第二の落城の惨

### <東京歴史科学研究会第34回総会報告>

## 第145号(2000年9月)

### 《特集：前近代日本の王権と東アジア—中世後期～近世初期を中心に—》

#### <東京歴史科学研究会第三四回大会委員会企画>

橋本 雄 室町幕府外交は王権論といかに関わるのか？

堀 新 織豊期王権論—「日本国王」から「中華皇帝」へ—  
討論要旨

#### <展示評>

杉山 弘 国立歴史民俗博物館企画展示—「地鳴り 山鳴り—民衆のたたかい300年—」—

#### <書評>

山崎雅稔 吉田孝著『日本の誕生』

#### <文献紹介>

安井 崇 「教科書に真実と自由を」連絡会編『徹底批判『国民の歴史』』

李 淵植 歴史教育研究会編  
『日本と韓国の歴史教科書を読む視点—先史時代から現代までの日韓関係史—』

#### <東京歴史科学研究会活動の記録>

藤田雅子 6月講座「比較・オスマン帝国と徳川幕府—前近代アジアの官僚—」

君島和彦 7月例会「フィールドワーク・八国山」

## 第146号(2000年12月)

### <東京歴史科学研究会第34回大会個別報告>

- 山崎雅稔 貞観八年応天門失火事件と新羅賊兵  
山口公一 植民地朝鮮における神社政策と朝鮮人の対応—一九三六～四五年—  
河原 円 国家総動員体制推進過程における「資源」政策論

### <書評>

- 畔上直樹 喜多村里子著『神社合祀とムラ社会』

### <委員会だより>

## 第147号(2001年4月)

### <東京歴史科学研究会歴史科学講座>

- 服藤早苗 王朝社会の性愛とジェンダー

### <東京歴史科学研究会6月講座>

- 鈴木 董 前近代オスマン帝国の支配組織の構造

### <研究時評>

- 大門正克 差異をつなぐもの／時間をつなぐもの—<経験>の視点から—

### <東京歴史科学研究会第35回大会報告レジュメ>

#### 【個別報告】

- 糟谷幸裕 戦国大名今川領国における裁判(仮)  
林 彰 明治期における修養思想について(仮)  
中島 醸 ニューディール期における労働者統合—R・ワグナーの国家思想の再解釈—(仮)

#### 【委員会企画】

- 委員会 1950年代像の再検討—地域における主体形成—  
森 武磨 1950年代の地方都市と農村  
佐藤 隆 1950年代の教育運動—国民教育運動論の生成と展開—

### <東京歴史科学研究会活動の記録>

- 神崎 豊 「歴史科学講座」参加記

## 第148号(2001年6月)

### <東京歴史科学研究会歴史科学講座>

大沼久夫 朝鮮戦争と日本人

### <研究時評>

平田雅博 ポストモダンとイギリス帝国史

### <書評>

前田晶子 大門正克著『民衆の教育経験』を読む

松永友有 平田雅博著『イギリス帝国と世界システム』

### <文献紹介>

森脇孝広 林宥一さん三部作

—『近代日本農民運動史論』『「無産階級」の時代—近代日本の社会運動—』『銀輪』—

### <活動の記録>

高田あや 徹底検証！憲法違反の「あぶない教科書」参加記

### <東京歴史科学研究会第35回総会報告>

## 第149号(2001年10月)

### 《特集：一九五〇年代像の再検討—地域における主体形成—》

### <東京歴史科学研究会第35回大会委員会企画>

森 武麿 一九五〇年代の地方都市と農村—小田原市を対象として—

佐藤 隆 一九五〇年代の国民教育運動と地域教育主体の形成

—岐阜県恵那地域の勤評闘争を手がかりに—

討論要旨

### <書評>

木村卓滋 北河賢三著『戦後の出発—文化運動・青年団・戦争未亡人—』

石居人也 稲田雅洋著『自由民権の文化史—新しい政治文化の誕生—』

### <研究時評>

宮崎 章 『新しい歴史教科書』の「書くこと」と「書かないこと」—東京裁判と占領期を中心に—

## 第150号(2001年12月)

### <東京歴史科学研究会第35回大会個別報告>

糟谷幸裕 戦国大名今川領国における裁判

林 彰 近代日本における修養思想—明治期ジャーナリズムを中心に—

中嶋 醸 R・ワグナーの国民統合構想の再解釈

—福祉国家論の視点からのニューディール国家構想の一検討—

### <文献紹介>

坂本 謙 歴史科学協議会編『日本現代史—体制変革のダイナミズム—』

### <東京歴史科学研究会活動の記録>

平塚健太郎 7月例会 フィールドワーク 東京湾三番瀬・汐留駅跡地

### <委員会だより>